

(答弁者：町長)

東日本大震災の大津波の影響により壊滅的な被害を受けた請戸漁港は、県による復旧事業と、町による荷捌き施設などの漁業関連施設の整備が完了し、令和2年4月には競りも再開されました。

これにより請戸の港に活気が戻ってきています。

一方で、震災前にあった漁船の数は94隻から29隻にまで減少しました。漁獲量も震災前に比べて8割近く減っています。そんな状況でも、多くの漁師の皆さんは浪江町外に避難しながら、避難先から請戸まで通って頑張っています。

町では、頑張っている漁師のみなさんを応援するため、ポスターやパンフレットを作成して、町内外のイベントなどでPRをおこなっています。昨年度には、震災前の名物イベントだった「請戸魚市」を開催して、請戸で水揚げされるお魚の美味しさを多くの人に体験してもらいました。

また、今年は漁業に少しでも興味を持ってもらえるように、漁師や仲卸しの人たちの働く姿や作業内容をわかりやすく動画にしてインターネット等で発信する予定です。

少しでも多くの人が請戸の漁業に関心を持ち、「働いてみたい」と思えるような取り組みを進め、漁業に従事する人を増やしていきたいと考えております。

漁師のみなさんは、請戸で捕れる魚の美味しさについて絶対の自信を持っています。町としても多くの方々に、請戸の魚を食べていただきたいと考えています。

只今は、漁業従事者に特化した答弁をしましたが、現在の浪江町は漁業に限らず、あらゆる分野において人手不足が顕著となっております。

このため、町としては浪江町に興味があるが働く場所がわからないといった方へ町内の会社での「職場体験」や「職場見学」をご案内しております。

また、町では「地域おこし協力隊」の制度を活用しており、この制度では浪江町の課題解決に意欲のある人たちを募集し、“なみえらしさ”を「見つける・創る・広める」をテーマとした活動をしているほか、大堀相馬焼の事業継承、復興に関する観光・旅行ツアープログラムの作成などの活動をしております。

これらの取り組みを進め、将来的には移住者を増やすとともに町内の人手不足の解消につながるよう引き続き積極的な情報発信に努めて参ります。